

えべつの未来づくりミーティング

～ 江別市PTA联合会編 ～

令和4年7月29日（金） 江別市民会館2階21号室

午後6時～午後8時5分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・札幌市に近いことが、強みであり弱みでもある。札幌市に通勤・通学している人が多いと思う。反対に、札幌市の人、江別市のことを遠いと思っている人が多い気がする。札幌市に住む人が、北海道立図書館に来るときに遠く感じるらしい。札幌市から江別市への人の動きが少ないので、その動きがもっとつくれたら、江別市が活性化するのではないだろうか。



・強みは、農業や工業がかなり充実していて、基幹産業がしっかりしているところだと思っている。弱みは、基幹産業がしっかりしていることを、江別市民が知らないこと。良いことをいろいろやっているが、それを市民が知らない。広報戦略が必要で、もっと上手にPRしたほうが良いと思う。学校でも、江別市民ではない先生も多く、江別市の良さを知らないのも、もっと先生に江別市の良さが伝わると、子どもたちにも伝わると思う。市内には、大学もあるので、子どもたちに、このまま江別市に残って仕事が見たいと思わせるような未来を見せる戦略が必要なのではないだろうか。みんな札幌市の方ばかり見ているが、札幌市より良いことをたくさんやっている。それが見えていないことが残念。



・小中学校の教育はとても良いと思う。学校の規模がそれほど大きくなく、ちょうど良い。その中で、子どもたちも自由に、積極的に学校生活を送っている印象を持っている。中学校の先生からは、中学生の学力レベルも高いと聞いている。弱みは、医療資源が少し乏しいと感じている。病院は多いが、救急搬送を受け入れるところが、人口規模の割に少なく感じる。また、若者向けの魅力がもっとあると思う。大麻地区に札幌市からも食べに来る店があるなど、隠れた魅力があるがメジャーではない。遊ぶところに関しては、スケボーを楽しめる場所などがあると良いのではないかと思います。

・札幌市から江別市に転入して感じたことは、公共交通の不便さ。地下鉄がないことも不便さを感じる要因になっている。札幌市に食事に行って、夜に江別市に帰ることを繰り返していると、遠さを感じる。乗り換えが発生することも、遠さを感じる一因になっていると思う。医療については、子どもを産める病院が一つしかなく、江別市で生まれる子どもも少ないのではないかと。江別市立病院が産科をやめたら、もっと減ると思う。ここ数年で思うのは、江別市内にカフェが増えたこと。野幌小学校の近くにできた「くまいちご」や、パンケーキの「totonocafe(トノカフェ)」には、札幌市からもお客さんが来ている。隠れ家的な要素を生みやすい環境なのではないかと思う。ただ、このようなカフェなど、たまり場になりそうなところは、郊外に点在しているので、交通手段が自転車である中高生には行きづらい。移動にはお金をかけたくないと思うので、自転車で行ける範囲に集まれる場所があると良い。

2 子どもの進学や就職について

- ・高校は江別市内に5校あるが、札幌市内の高校にも通えるので、選ばれない場合も多いと思う。大麻地区にある中学校の卒業生も、市外への進学者が多いと聞いている。自分の子どもも、市外に進学した。ただ、通える範囲に、多くの高校や大学があることは魅力になっていると思う。反対に、江別市内の高校や大学に、市外から進学している人も多い。
- ・就職については、江別市内にはいろいろな産業があり、魅力的な職場も多いので、それらの企業と、高校や大学が連携して仕事の魅力を伝えていくことが必要だと思う。学校の先生は、進路指導をする際に、少しでも良いといわれている大学に行かせることが使命になっていて、将来子どもたちがどんな仕事をするかはあまり考えないし、先生以外の仕事を知らない。そういう先生方に、地域が一体となって、地元の産業や仕事の魅力を伝えて、高校生や大学生にも伝わるようにしていかなければならないと思う。そうなれば、卒業後、一度は江別市を離れても、「江別市でこういう仕事をやりたい」という思いを持って戻ってくる子どもを育てられるのではないかと考えている。
- ・札幌学院大学を中心に、市内の大学や企業と連携して、江別市について学べる講座（江別学）を開催している。このような講座に参加して、江別市で働きたいと思う人には何らかのポイントを付けることや、企業説明会をセットで行うなど、学びと仕事との連携を進めたら良いのではないかと考える。小中学校でも、江別市の良さを伝えてほしい。教育の中身まで一歩踏み込めるような作戦を立てたら良いのではないだろうか。学校は、地域と連携した教育をやらなければならなくなっているのだから、運営委員会で協議するだけではなく、地域の想いを学校教育に反映させられる作戦を立てられたら良いと思う。
- ・今住んでいる地域には、親子で同じ小学校を卒業した人が多いと思う。地元に住っていることは、個人的には良いことだと思う。高校の進学になると、選択肢が多く、市外に進学する子も多いと思う。自分としては、子どもが最終的に、何らかの形で江別市に戻ってきて、江別市で生活をしてくれると親は嬉しいと思う。就職については、江別市内で就職できればベストだが、札幌市に通勤しても良いと思う。江別市の会社に勤めたら、江別市に住むことになると思うが、札幌市の会社に勤めて、江別市に住むことを選んでもらうには、生活拠点としてのプラスアルファの魅力が必要なのではないかと思う。
- ・札幌市出身で、高校は近さで、大学は学費重視で選んだ。大学卒業後、食品関係の研究開発部門に就職したが、今思えば、小学生の時に市内の企業見学に行ったことが記憶に残っており、それが就職先選びに影響したと思う。学生時代の経験は頭の片隅に残っていると思う。最近の学生は、就職サイトで就職情報を探すので、そのようなサイトで企業名が検索されるようにしないと、認知されない。そのような部分を意識した情報発信をするとともに、小中学校で記憶に残るような体験をしてもらうと良いのではないかと考える。
- ・他の町に住んでいた時、町に高校がないために、多くの親が早い時間に子どもを送迎していた。そういう意味では江別市は恵まれている。ただ、進学よりも病院が重要だと思う。1時間以上かけて病院に通院していたこともある。子育てで重要なのは、安心して行ける病院が近くにあるかということ。進学については、子どもが自分で通えるかどうか重要。学校と家とその周辺の環境は良いか、店が近くにあるか、治安は悪くないかなどが重要。そのような情報も含めて、学校の評判も今は口コミで広がる。江別市は、小学校から高校まで、また、大学も含めて、子どもが自分で通えることをアピールしたら良いと思うし、足りない部分は整備していけば良いと思う。



3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・今住んでいる地区は戸建てが多いが、高齢者のひとり暮らしや、所有権はあるが住んでいない空き家が増えてきた。ずっと暮らしている世帯の方も、年配の方は分かるが、その子や孫の世代の住民は知らない。今後の地域の状況や住民相互の関係性を考えると、目に見える地域活動を行っていること

は良いことだと思う。地域で人間関係を持ちながら暮らしていける環境が重要であり、地域コミュニティの活性化を図るための方策が必要だと思う。近所の商店街では、空いていた店舗で、学童保育ができたり、プログラミングやブックシェアリングの活動が行われていたり、従来の商店街とは違う形で活性化している。そのような活性化は大事だと思うし、プログラミング教室や家具屋など挑戦的な活動は若者には良いが、高齢者にはあまり縁がないと思うので、できれば、若者も高齢の方も一緒に関わられるような地域の活性化ができると思う。

・人口減少は、子どもが少なくなっていくことが要因の一つとなっているが、諦めてはいけない。子どもが産める病院があることと、生まれた子どもが安心して暮らせる環境が重要だと思う。それに加えて、土地の使い方をもっと考えてはどうかと思う。江別市は公園が多くあって良いが、とても小さくて無駄になっている公園や、公園以外の使い方が良いのではないかと感じる公園も多い。子どもたちが歩いて行ける、あるいは自転車で集まれる、基幹になる公園の整備を進める一方、そうでない公園は転用が必要ではないか。コルクエベつは一つの良い例だと思う。また、JR沿線から離れると不便なので、小型でも良いので、市として循環バスを運行して、高齢者に限らず、みんなが活用できるようになると、市内の商業施設やJR駅に行きやすくなるのではないだろうか。少しJR駅から離れたところでも住みやすくなると思う。

・若者に目を向けて、若者の意見を取り入れるべきだと思う。私の子どもが政治家に対して、「コロナ禍になって、おじさんたちが決めたことで、子どもが犠牲になっている」と言っていた。その話が心に響いた。考えてみると、子育てや教育の話をしているが、大人が決めており、当事者の子どもの話を聞いているかという点、あまりそうではないと思っている。子育てや教育にも、子どもの意見を取り入れていくべきだと思う。中高生からアンケートで意見を聞くことはとても大事なことであり、その結果を取り入れていくことが、若者にとって、魅力のあるまちづくりにつながると思う。就職の部分では、ベンチャー支援なども行ってほしい。大きな土地を必要としない企業も増えており、誘致するチャンスだと思う。そのような取組で働く場の拡大をめざしてほしい。

・心と体の健康管理が大切であり、人の増減を問わず、地域医療の安定は重要だと思う。それと、コミュニティの構築。家族でも交流の度合いはいろいろだと思うが、コミュニティも家族と同じで、交流の積み重ねが大事だと思う。つながりの強さは、接している時間とも関係すると思っている。普段から地域内での交流がないと、急にコミュニティを築くことは難しい。それは、市が与えるものではなく、地域で築いてもらわなければならないと思う。市は、コミュニティを築く、きっかけづくりはできると思う。公園については、安全面が重視され、自由に遊んだり使ったりできない公園が多い。子ども目線で、どんな公園が必要なのかを考えるべきで、大人から与えられた公園ではなく、子どもが欲しい公園をつくるのが大事だと思う。親がどう遊ばせたいかは大事だが、子どもがどう遊びたいかも大事だと思う。例えば、子どもや学生が徒歩や自転車でいける範囲に、「食」や「職」が体験できる遊び場ができるといいなと思った。そこで高校生がアルバイトをすることができたり、子どもが直接、企業の人たちに質問する機会ができていたりすると良いと思った。



・若者の発想を取り入れた、子ども参加型のまちづくりを進める意見は、とても良いと思う。夢もあり、面白い。江別市の公園は、札幌に比べれば使い勝手が良いと思う。ボール遊びもできるし、届出をすれば、手持ち花火やガスコンロでのバーベキューもできる。そのことはあまり知られていないので「江別市の公園でボール遊びしましょう」と、売りにしてはどうだろうか。